

「南多摩尾根幹線沿道土地利用方針」に関するパブリックコメント

パブリックコメントに寄せられた意見と市の回答

実施時期：令和4年9月26日（月）～10月26日（水）まで

提出件数：2件（内訳：窓口1件 インターネット1件）

| No. | 意見   | 市の回答  |
|-----|--|---|
| 1   | <p>尾根幹線沿い（南野地域など）は学生向けのアパートが密集しているが UR 街区、JKK 東京街区に呼び込み（シェアハウスや1ルームへの改築で）、この地域を若者に優しい街づくりの実験的な地域にチャレンジしたら如何でしょうか。尾根幹線沿いの開発は産業・商業地に大きく変貌することも想像できます。「職住近接」で勤労者に環境に配慮した優しい街づくりとなるよう期待します。</p>  | <p>若者世代の流入、多世代の交流などは、まちの魅力向上には欠かせないものと考えております。ご提案ありがとうございます。</p> <p>南多摩尾根幹線の土地利用については、市としても、職住近接、まちの賑わいづくりに向けた土地利用転換を図ってまいりたいと考えています。</p> |
| 2   | <p>&lt;対象&gt;<br/>                     P11 第1章 尾根幹線沿道を取り巻く状況 社会変化<br/>                     「③ 災害の激甚化・頻発化による防災性への意識の高まり」へ追記<br/>                     「⑤ 気候危機へ対応する持続可能な社会の構築」へ追記<br/>                     &lt;意見&gt;追記<br/>                     ③「・防災拠点や避難所となる重要な施設には、エネルギー供給の多重化を図り、フェーズフリー*を実現することで防災拠点を高めることが望まれる」<br/>                     ※フェーズフリー：日常的に使用・提供している施設機能や市民サービス、システムなどを平常時だけでなく災害時等の非常時においても活用できるよう整備してくという考え方。<br/>                     ⑤「・脱炭素社会実現までの移行期を見据え、環境負荷軽減を図る取組みとして、省エネルギー化とエネルギーの脱炭素化等を同時進行していく必要がある」<br/>                     &lt;理由&gt;<br/>                     ・尾根幹線の防災拠点性を高めるためには、エネルギー供給の多重化（リスクヘッ</p> | <p>脱炭素化、省エネルギーの推進はまちづくりにおいても重要な視点と捉えています。エネルギー供給の多重化を含め、追記等を含め修正して参ります。</p>   |

ジ) や発災時の供給確保、並びに分散型電源を活用出来ることが重要です。平時からガス・電力等のインフラの強化や再生可能エネルギー等分散型電源の導入拡大、燃料等の搬送体制の整備等を図る必要があると考えます。

- ・エネルギー供給の多重化を図るため、災害時のみならず、平常時においても活用できる高効率な自立分散型エネルギーの利用拡大への取り組みは、安定したエネルギーの確保と地球温暖化対策と両立できる取り組みとして重要と考えます。

- ・防災・減災対策との横断的連携により推進する施策については、フェーズフリーの考え方を含む多角的な視点から検討するなど柔軟な考えを取り入れていく必要があると考えます。

< 関連する技術の紹介 >

災害による大規模停電発生時の災害対策本部等、災害対応拠点の機能確保と、72時間を超える長期の停電に対する備えとして、自立分散型エネルギーの導入を検討し、電源の自立化・多重化によるエネルギーの確保を図ることが重要と考えます。また、停電時に自立運転可能なタイプの空調機（停電対応型 GHP）があります。停電対応型 GHP は、停電時に室内の個別空調を継続しつつ、あらかじめ選択した照明、通信機器等の電気機器への給電が可能のため、屋内運動場などの避難所の防災機能向上を図ることができます。